

# ミネマサイキアトリー

映画の中の精神医学

小澤 寛樹

今回取り上げるのは米映画「ブラック・スワン」。

ナタリー・ポートマンが第83回アカデミー賞の主演女優賞に輝いたサイコスリラーの秀作です。

ニューヨークのバレエ・カンパニーに所属するニナ(ポートマン)は、「白鳥の湖」公演で主役に抜てきされます。元ダンサーの母親エリカ(バーバラ・ハシー)の支配と寵愛(ちようあい)を受けて育てられた彼女はバレエが人生の目的そのもの。まるで「巨人の星」の親子のよう

## 精神病の発症直前が描かれた

### 「ブラック・スワン」(2010)

れませんが、魔性的で妖艶な「黒鳥」をうまく表現することができません。舞台監督の厳しい演技指導に、ライバルの出現。母親からは愛情と同時に冷ややかな態度を受けます。やがて彼女は極度の緊張から次第に混乱し、幻覚と妄想により現実と虚構の世界に迷入していきます。

最近、統合失調症をはじめめ精神病をより早く見つけ出し、予防、治療しようとする「早期発見・早期介入」がイギリス、オースト



「ブラック・スワン」フルレインのジャケット(20世紀フォックスホームエンターテインメントジャパンから発売中)

でも、統合失調症と診断を受けた人が、過去に症状が出現してから医療機関を受診し、適切な治療を受けるまでに何年も見過ごされること

映画のニナも急激に精神変調を来すのではなく、ARMSや前駆状態といえるような非現実的な症状が徐々に現れてきます。

付いて休ませようとしたが、追い詰められた彼女には束縛、抑圧とさらさられ反発を買っただけでした。心の変調を早く見つける

精神障害を発症する危険性の高い状態をARMS(アームス、アットリスク精神状態)と呼びます。微弱な数日の幻覚や妄想状態、精神病になりやすい特性(家族歴や人格特徴)があり、社会的機能低下のある場合を指しています。発病する数年前から不安や抑うつが背景になることもしばしばあります。

精神障害を発症する危険性の高い状態をARMS(アームス、アットリスク精神状態)と呼びます。微弱な数日の幻覚や妄想状態、精神病になりやすい特性(家族歴や人格特徴)があり、社会的機能低下のある場合を指しています。発病する数年前から不安や抑うつが背景になることもしばしばあります。

ドイツの精神科医クラウス・コンラートは統合失調症が始まる時期の緊張感を、舞台上立つ役者の緊張感に例えて「トレマ」と称しました。ニナはまさしく舞台上で緊張の極みに立ちます。

残念ながら、不幸な状況になるまで、彼女自身は本当の意味で自分の変調に気が付いていませんでした。自分の心を観察するのは自分の脳機能ですから、心をとらえることは容易ではありません。純粋に客観的な観察ができないのです。母親が気

リアで盛んになりつつあります。言ってみれば、風邪を予防するのと同じで、手を洗い、ワクチンを励行し、かかったがと思ったら無理をせずに休養するのと同じ考えです。

長崎大精神神経科でも精神障害の早期介入に積極的に取り組んでいるところ

長崎大の調査

長崎大の調査

# 徐々に進み、見過ごす変調

長崎大精神神経科学教室のホームページのアドレスは <http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/psychtry/>